

○ふくし井戸端会議の結果報告書での丸亀市全体の課題について  
(不足しているもの、必要なものは何か?)

【情報】

- ・高齢者にしても障がい者にしても本当に支援を必要とされる方の把握が十分でない。(行政自体が情報を出さない)
- ・障がい者についての情報が不足している。
- ・高齢者について『情報不足』の支援が必要な人ではなく支援が必要になった場合の連絡先が必要。

【地域関係】

- ・隣近所の信頼関係が弱い。
- ・一人暮らしが増えてきて、地域との交流もすくなく孤独である。
- ・高齢化・コミュニティ機能の低下
- ・全世代を通して地域のつながりがなくなっていると感じているところが多い。

【移動】

- ・公共の交通機関が不便である。
- ・デマンドタクシーのような交通手段(買い物・病院等への移動手段確保)
- ・「移動」サービスを充実させる事で、買い物、通院、散発等日常の活動参加の継続ができる。
- ・高齢者・1人暮らし又はそれに近い(老老介護)人達の足の問題をどうかしたい。綾歌町(栗熊・岡田・富熊)では介護タクシーも無い。この状態をどこまで市・コミュニティ・自治会でカバーできるか?簡単に答えがでない。

【仕組みづくり】

- ・たすけあいサービスを全地区で実施するための支援(補助金・しくみづくり)
- ・多様なケースによる「担い手」不足
- ・住居近くで買い物ができる仕組みを作る(定期の市場)
- ・個々のニーズに合わせた柔軟なサービス提供システム(それを誰が行うのか?)
- ・近所どうしの助けあい支えあいのしくみ(参照:自治会加入、マンション)
- ・買い物、ゴミ出し(資源ゴミ・不燃ゴミ・ペットボトル等)

【居場所づくり】

- ・居場所づくり(郡家・岡田で実施中のカフェ等)への支援(補助金)
- ・様々な立場の人が集まることのできる居場所(ex、高齢、障がい、子ども、困窮)

【その他】

- ・丸亀市の場所による格差。
- ・専門職を含めて会議することで解決することがあると感じた。それぞれの代表が集まる会議を周知いただけたら参加でき協力できる。小さなそれぞれが出来る事をつなげる事のできる集会を作るべきです。

第2回丸亀市地域包括ケアシステム推進協議会生活支援・予防部会意見まとめ(H28. 10. 6)

【課題】不足・必要なもの

①(生活支援サービスについて)

- ・近所の方の協力←民生委員から声かけ
- ・近所付き合いのない方の情報がない(行政からの情報がない)  
⇒情報開示についての本人の同意の仕組みづくり 例)市の条例を作ってみては。
- ・居場所づくり(仕組み)
- ・ボランティアも専門知識を持つ。
- ・移動支援→一般高齢者への行政サービスが少ない。  
例)乗り合いタクシーへの要望 コミュニティ単位や手帳保有者
- ・仕組み→ターゲットは?高齢者が対象であるが、関わるのは地域の人達
- ・共同作業をする。(高齢者を中心に関わる人が集う場で)

○仕組みづくりにの整備についての不足している。

担う人材についても不足。

②(介護予防について)

- ・地区で様々な活動がされている。
- ・城北地区では小地区に分けて「認知症の勉強会や手助けについて」の会を開催した。
- ・コミュニティによって温度差がある。(参加対象者が決まっている。)
- ・地域だけでなく、家族の中でも孤立している。→「繋がり」を作っていく。  
例)個と地域 個と個
- ・福祉協力員の役割の明確化をする(自助意識高める)

○介護予防の場つくりのために何をしたらよいか。

- それぞれが丸亀市で行っている公助・自助では足りないためよりよい生活を送っていくためにどうすれば限られた物の中で仕組みや居場所づくりが作れるか。  
何か一つからでも形にしていくためにはどうすればよいか。  
⇒セルフケアの視点 自助と公助

例)専門的知識を介護予防でどう生かしていくか。